

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立木本小学校
校長氏名	岡部 美代恵
作成日	平成30年(2018年) 2月28日

1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	○保護者、地域の信頼にこたえられる学校作りに努める。	○心豊かで、思いやりの心をもち、友だちにやさしく接することのできる児童の育成に努める。	○児童一人一人が意欲的に学ぶため、基礎学力の定着に努める。 ○自分自身で試行錯誤し、最後まであきらめず課題に取り組める児童の育成に努める。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員の方に行事の案内をし、児童の様子を直接参観いただき、ご意見をいただいた。 ・学校だよりを家庭だけでなく地域にも配布するとともに、ホームページにも掲載し、学校の取り組みについての周知に努めた。 ・地域の方と育友会との交流の場を学校で設定し、学校と育友会・地域との連携を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員と全児童で「あいさつ運動」を実施した。 ・平和学習や人権学習は学年で共通教材を用い、学習後の児童の様子を交流した。 ・元気大作戦で「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、生活習慣の改善に努めた。 ・高学年になると外遊びに行かない児童が増えてくるという校内調査の結果から、「外遊び習慣」や「マラソンウィーク」を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内学力調査(2回/年)を実施し、各学年や学校の課題について交流した。 ・国語科を中心とした研究・研修により、教員の指導力の向上と授業改善を図った。 ・「のびっこタイム(錬成タイム)」の効率的な活用について学年会で協議した。 ・「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習の定着を図った。今年度は、自主学習ノートへも全校で取り組んだ。
取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページで行事予定を知らせるとともに、各行事の際は自治会等にも直接お知らせすることで地域の方に多数ご来校いただくことができた。 ・生活科の遊びの指導に地域の方に来ていただくのは、恒例となりつつあるので、児童もたのしみになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」に取り組むことにより、児童アンケートでは、あいさつができると肯定的に回答した児童の割合が約8割である。来校者からは、「あいさつがよくできている」と評価いただいた。 ・朝食はどの学年もほぼ全員が食べてきているが、内容が気になったので、具体的な食材などを紹介しながら、全児童に指導をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休憩後の15分を基礎学力定着のため「のびっこタイム」として、読書や漢字・計算に取り組んだ。漢字の書き取りや基本的な四則計算については、校内調査によると、各学学年8～9割の正答率であるので、概ね定着していると考えられる。 ・自主学習ノートについては、個人により、取組の差が大きいので、具体的な内容等についてより具体的に提示していく。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会において、学校行事について意見徴収し、学校・保護者・地域との連携についての具体的方策について協議し実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も全教員・全児童による「あいさつ運動」に取り組む。あいさつのマナーについての指導も行っていく。 ・児童の自主性及び自己肯定感を育むため、児童委員会活動を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も基礎学力部・人権教育部・特別支援教育部を中心に個に応じた指導のありかたについて、研究を進めていく。 ・家庭学習の充実については、保護者への周知について学年・学校全体で行っていく。

3 その他の課題

- ・スクールカウンセラーへの相談件数が多い。
- ・ゲームやタブレットの使用時間が長い児童(平日の使用時間が4時間を超える)がいる。
- ・語彙が少なく、文章や表現に活用することに課題がみられる。
- ・漢字練習やテストでは正しい漢字が書けていても、作文や普段使うワークシート等に既習漢字を活用できていないことが見受けられる。
- ・算数の問題で、答えがわかっているにもかかわらず、その解答を導き出すための説明を文章で表したり、言葉にしたりすることが苦手な児童が多い。